

彩の国地鶏タマシャモの改良

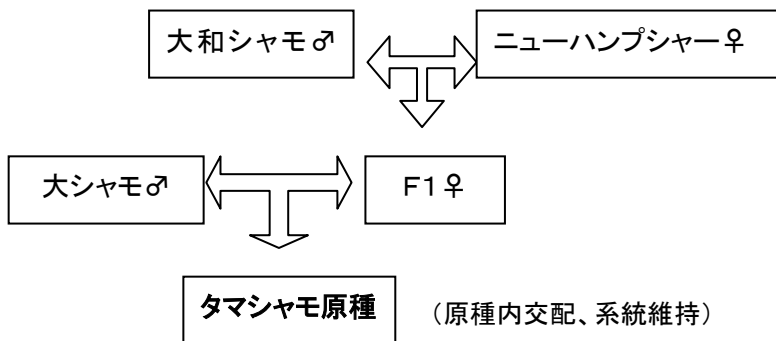
1 はじめに

タマシャモは、大和シャモ、ニューハンプシャー、大シャモを用いて旧埼玉県養鶏試験場が昭和59年に育成した高品質肉用鶏です。このタマシャモ原種とロードアイランドレッド(以下ロード)を交配して平成3年に「彩の国地鶏タマシャモ」を作出し、農家へのヒナ供給を開始しました。最初は年間500羽足らずの供給でしたが、近年は30,000羽を超え、関東でも有数の地鶏となってきました。

しかし、育成から30年を経過して近交度が高まり、産卵性が低下するなどの問題が生じてきています。一方、ヒナの譲渡希望は増加しており、飼育農家への供給が不足する状況になってきています。そこで農業技術研究センターでは、農家の期待に応えるため、原種、種鶏の改良に取り組みました。

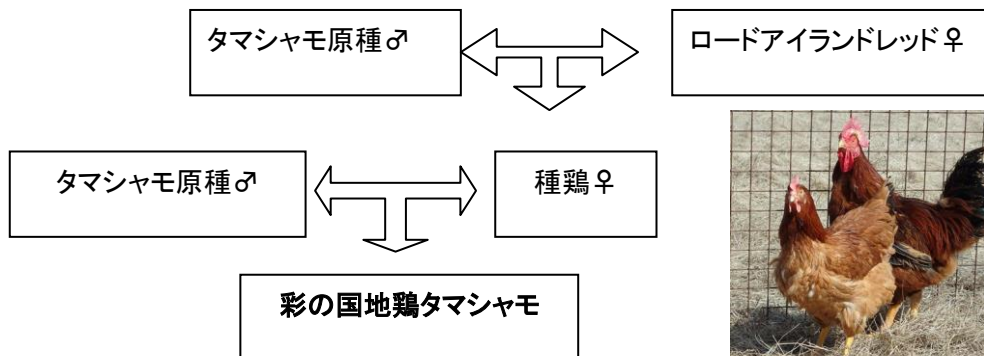
2 彩の国地鶏タマシャモができるまで

タマシャモ原種の交配様式



タマシャモ原種雌雄

彩の国地鶏タマシャモの交配様式



ロードアイランドレッド雌雄

3 種鶏の改良

(1) 産卵性

種鶏の改良のため、当所保有のロード（埼玉ロード）♂と愛知県の（独）家畜改良センター岡崎牧場から導入したロード♀を交配し、新しいロード（岡崎ロード）を作成しました。埼玉ロードと岡崎ロードの産卵性を調査した結果、岡崎ロードでは産卵率が20%上昇することがわかりました。この岡崎ロード♀を使った種鶏を用いることで、彩の国地鶏タマシャモが効率的に生産できるようになります。

(2) 発育試験

埼玉ロードまたは岡崎ロードを交配に利用して生産された地鶏タマシャモ♀（埼玉区30羽、岡崎区30羽）を屋内のケージで飼育し、体重、産肉性を調査しました。

ア) 体重

発生から20週齢まで2週間隔で全個体の体重を測定しました。その結果、体重はほぼ直線的に増加し、140日齢で埼玉区2,839g、岡崎区2,786gで、両区に有意差は認められませんでした。

イ) 産肉性

地鶏タマシャモは、飼養管理基準で飼育期間を150日齢以上と定めています。そこで150日齢及び180日齢で解体し、部位ごとに重量を測定しました。と体重（放血、脱羽後）は、150日齢で埼玉区2,646g、岡崎区2,582g、180日齢で埼玉区2,821g、岡崎区2,950gで、いずれも区間に有意差はありません。正肉（もも、むね、ささみ）がと体重に占める割合は、区及び飼育期間に関係なく40～42%でした。

4 今後の取組

種鶏については、産卵性に優れた岡崎ロードを利用した改良を続けていきます。

原種については、（独）家畜改良センター兵庫牧場から導入した大シャモ831系統を交配することで、新たなタマシャモ原種を育成します。



また、タマシャモ及び大シャモ831系統の遺伝子を調べたところ、肉のうまみ成分であるアラキドン酸を多く含むタマシャモの育成が可能であることが判ってきました。今後は遺伝子情報を利用し、生産性が高くおいしい「彩の国地鶏タマシャモ」の生産を目指していきます。

【問い合わせ先】

農業技術研究センター品種開発・ブランド育成研究担当

電話：048-536-0311（代表） FAX：048-536-0315（代表）

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0909/index.html>